

筑後川水系^{こいしわらがわ}小石原川ダムにおけるヤマネの確認について
(第3報)

水資源機構朝倉総合事業所では、学識者の指導・助言を得ながら、哺乳類のヤマネ（国指定天然記念物、環境省レッドデータブック：準絶滅危惧、福岡県レッドデータブック：絶滅危惧）の調査を平成22年2月から実施しています。

平成23年8月から9月までの調査において、9月21日に小石原川ダム事業用地周辺で、ヤマネ1個体を確認しました。

事業用地周辺でのヤマネの確認は、平成21年10月23日および平成22年11月24日に水資源機構朝倉総合事業所からお知らせした事例に続き3回目となります。

今後も調査を継続し、ヤマネが確認された場合には、水資源機構朝倉総合事業所（小石原川ダム）のホームページ等でお知らせします。

平成23年10月5日



独立行政法人水資源機構 朝倉総合事業所

発表記者クラブ

国土交通省九州記者会
九州建設専門記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 朝倉総合事業所 環境課長 ^{こうさかひでき}高阪英樹
住所：福岡県朝倉市上秋月1373番地1
電話：0946(25)1100

(参考資料)

NT (準絶滅危惧)

ネズミ目 ヤマネ科

ヤマネ

1属1種の日本産固有種で、本州、四国、九州、隠岐島後に分布する。本州北部においては低地で見られるものの、本州中部では700~1,800mの山地からのみ知られていた。しかし最近、和歌山県、徳島県、長崎県の低山帯からも生息が確認された。ネズミに似るが、尾には約20mmの長毛を生じ総状になっている。毛色は背面が淡褐色、腹面はより淡色で、背中に黒褐色の線を持ち、目の周囲も黒褐色である。頭胴長49~84mm、尾長33~54mm、後足長15~18mm。体重は春~夏は14~23gほどであるが、冬眠前には40g近くの個体が見られる。針葉樹林、常緑・落葉広葉樹林などあらゆる林に生息する。樹洞や民家などで営巣し、夜行性である。外部の気温が12~14℃になると樹洞や土の中で冬眠する。食性は昆虫の成虫を主とし、秋には果実を食す。繁殖期は地理的変異があり夏~秋、産仔数は3~7仔である。巣箱を用いた調査では、92頭/km²という記録がある。基本的には森林性のため、森林伐採による生息場所の破壊が個体群維持に強く影響すると考えられる。国の天然記念物(1975年)。

~ 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック
哺乳類 2002 環境省編」より抜粋 ~

その他、「福岡県レッドデータブック2001 福岡県の希少野生生物」については、
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/kankyo/rdb/> を参照下さい。



小石原川ダム事業用地周辺で確認したヤマネ(平成23年9月21日撮影)
(オス・メスの区別、体長、体重などの詳細は不明。成獣と考えられる。)